

平成30年(2018年)11月23日(金曜日)

三島市長選

駅前再開発の争点化鮮明に

公開討論会 立候補予定3氏持論

三島青年会議所は21日夜、任期満了に伴う三島市長選(12月9日告示、同16日投票)の立候補予定者公開討論会を市民文化会館で開いた。3選を目指す現職の豊岡武士(75)、県議の宮沢正美(69)、会社経営の石井真人(39)の3氏が登壇。争点になる見通しの三島駅前再開発事業を巡り初めてそろって意見し、現職は推進、宮沢、石井の新人2氏は見直しの姿勢を鮮明にした。



公開討論会で政策を語る(左から)石井氏、宮沢氏、豊岡氏
＝三島市の市民文化会館

豊岡氏は事業は30年「得る」としていた。宮沢氏は「再開発は予定のマンションは空地、JRと協議して再本的にタワー型(高さを抑える)板状型は考えていない」と明言した。高層化の設計は川勝平太知事や一部市民が懸念を示し、市は一時、「板状型もあり得る」としていた。宮沢氏は「再開発は予定のマンションは空地、JRと協議して再本的にタワー型(高さを抑える)板状型は考えていない」と明言した。高層化の設計は川勝平太知事や一部市民が懸念を示し、市は一時、「板状型もあり得る」としていた。

市長会見で「高さ下げる必要」マンション

再開発事業のマンションをタワー型にする」と表明した豊岡市長は一方で、翌22日午前の定例記者会見で「高さを下げる必要は感じるとの認識を示した。タワー型を維持しつつ、知事や一部市民の懸念に配慮する態度を以てなっている。」と明かした。市長は会見で市民説明会で実施したアンケート結果を公表した。自由記述でタワー棟の高さに触れた98人のうち賛成が57人、反対が41人だったとし、「賛成者にも高さに配慮を求める意見があった」と明かした。

石井氏は「市庁舎や清掃センターの建て替え問題を先送りしてはならない」とし、伊豆の玄関口である駅機能の方向性は周辺市町を巻き込んで議論すべきとした。

財政面では再開発などで市の借金がピーク時に500億円を超えるとする試算を新人2氏が相次いで問題視し、豊岡氏は「明日のこと(経済)は誰にも分ならず、努力して税収を上げるに尽きる」と答えた。

福祉や教育、地域経済の底上げでも論戦し、約320人が傍聴した。会場の模様はネットで生配信された。